

## 「ひらの青春生活応援事業」に関するいくつかの プロローグ 5

### No. 7 提案に応えていただけるかどうか …… 「やってみたい！」 と思ってもらいたい

直営の実施は、到底困難であり、事業委託という方法を軸としながら、検討を進めることとした。  
ところが、その具体的な方法や作業については、経験値が高くなく、身近なところに教科書的なものがない。  
自分たちで、探っていくしかなく、それぞれの職員のネットワークなどを活用し、徐々に内容を固めていった。

前述のように、

- # 具体的な「中退防止策」の発案や実行は、行政サイドには限界
- # 行政サイドだけの企画ではなく、経験ある団体や法人のアイデア
- # 外部の事業者の経験を活かせる方向性

これを最大限活かしていくには…… 公募型のプロポーザル方式で受託事業者を選定することに。



しかしながら、まだまだ、課題は満載。ひとつは、次年度(2016年度)事業実施のための予算獲得のための調整など。  
当初段階では、事業の構想や進め方を説明しても、そもそも必要性に対する意識が低く、理解度は、「????」。  
それでも、担当チームのがんばりで、徐々に雪解けとなり、どうにか予算を獲得へ。(事業の予算化は本当に困難)  
また、契約方法についても、細部の調整が必要となり、あらためて、内部の説得にこれほどハードルがあるとは…。

さまざまな調整を進めていき、なんとか募集の公告へ。

実際に提案いただけるかどうか…、応募したいと思ってもらえるかどうか…、これまでにない緊張の連続。  
「期待」と「不安」の日々が続いていると記憶しています。